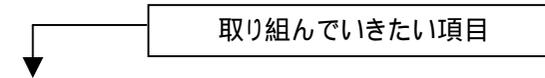


地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)



項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	MCSとしての運営理念もあるが、当ホームの理念を掲げ、提示している。		フロア - としてのもく穂油も掲示しており、スタッフ全員が同じ方向を向いてケアに専念出来る様、努力している。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	申し送り時に、理念の唱和を毎回実践し、スタッフが確認しあう時間を設けている。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	家族会にて、折に触れ伝え合い、毎月各フロア - ごとの新聞を作成する。それらを、入居者にも閲覧していただけるように掲示している。		
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	毎日の散歩時に入居者とスタッフが近隣住民へ積極的にあいさつしている。 自治会への加入。 回覧版の受け渡し時のふれ合い。 消防訓練等をきっかけにして、消防署の方にホーム・入居者の様子を知っていただく。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会の草取りに、入居者と共に参加している。 近隣の教育機関と連携を取り、ボランティアの受入等をしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	AED講習会への参加(スタッフ)各講習会の案内を掲示。ヘルパー2級研修生の受け入れ。		近隣地域の高齢者との接点の機会が少ないので、探していきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	各スタッフに対し、会議時に、個人のケアプランを具体的に説明し、また、家族にも、家族会議時に改善点等を説明し、ご理解いただく。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に運営推進会議を行い、ホームからの詳細な報告をする。家族とホーム間での質疑応答・アンケートを行っている。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当窓口へ、ホームの実績やケアサービスの取り組みの様子を伝え、見学に来ていただく。自ら足を運び、家族会、運営推進会議の報告をする。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	成年後見直制度については知っているが、必要なケースに遭遇したことが無く、支援できる体制になっていない。		各スタッフの理解が一致しているわけではないので、勉強会に参加出来る様、見直していきたい。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議中、虐待・拘束について話す時間を設けている。		身体拘束だけでなく、言葉の拘束につながらないよう、定期的に会議などで話す時間を作っていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>時間を取り、十分な説明を行っている。 リスクや退去時についてのホームサイドの方針について話し合い、理解を図っている。</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>運営推進会議時確認を行い、アンケートにより意見を収集している。ホーム内に苦情相談窓口の掲示、意見箱、を設けている。入居者が、日頃から何でもスタッフに話せるような環境作りに心掛けている。</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月、家族への手紙を担当者が報告もかねて作成し、ホーム新聞・金銭報告なども一緒に送付している。 また、個別に電話連絡もしている。</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族会にて、家族同士で討議・意見交換できる時間を作る。 スタッフに対しての苦情を頂いたときには、申し送り・会議時の話し合いを通して迅速かつ適切に対応、改善している。</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>月に一度の会議時に意見を取り入れを聴く時間を設けている。 定期的に個人面談を行っている。</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>ホーム長は日々のシフトに入っておらず、状況に応じた対応ができる体制になっている。</p>		<p>行事がある場合は、スタッフを確保出来る様勤務調整し、スタッフにも理解を得る。</p>
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>異動や離職の場合は引継ぎの時間を設けている。 新入職員は全入居者に紹介している。 各人が必ず本社で開催される新人研修会へ参加している。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	本部で開かれる新人研修・リーダー研修などの研修に参加する機会を確保している。また、外部研修についても通知、参加を促している。		
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の特徴・他福祉施設との交流を持ち、良い点はホームに持ち帰り、ホームのケア向上のため積極的に実践している。		
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	休憩時間・場所を必ず確保し、互いの休憩時間帯には声掛けをしあう。シフトを組む上で、希望休日を取り入れている。		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者も現場に入り、各スタッフの努力や改善点を把握している。各自が健康状態を良い状態に保てるよう、年1回(夜勤業務を含む勤務者については、年2回)の健康診断を行っている。		スタッフの行動の変化や顔色などの変化に、細かな配慮をし、早い時点での問題解決に努めている。
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居者が抱える不安や、様々な思い入れをホーム・スタッフ一人一人が深く受け止められるように、談話の時間を取っている。また、スタッフが入居者に受け入れていただけるような関係を築き上げている。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族が求めていることを理解する為、話し合う時間を十分に取っている。 ホームとしての対応を話し合っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>できる事はすぐに実行し、信頼関係を築き上げている。入居者の個々の必要性に応じ、他サービス機関との連携を図っている。</p>		
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居者に見学へ来て頂く。自宅にて使用されていた家具などを持ち込んでいただく。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>不安を取り除いていただけるよう、声掛けを実践し、スタッフが共に行動できる時間を増やしている。</p>		
28	<p>本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>面会時などに、利用者の様子を細かく伝え、話し合いの場を設けている。</p>		
29	<p>本人と家族のよりよい関係に向けた支援</p> <p>これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している</p>	<p>家族へのご報告の中に、行事予定を記載し、参加していただけるように呼び掛けている。入居者の心の内を家族に伝え、家族の協力の大切さを理解していただけるよう取り組んでいる。</p>		
30	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>家族の協力を得ながら、自宅へ帰省、行事等では友人・ボランティアの参加を呼び掛けている。</p>		<p>面会の大半が家族であり、友人の面会回数が皆無に等しいため、手紙を出して頂くなどして、昔からの交友関係を継続していけるように支援していく。</p>
31	<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている</p>	<p>個々に交流をもつ時間と場所を確保している。申し送りを通して、極詳細な変化についても把握し、情報を共有出来る様取り組んでいる。</p>		<p>非難が一人に集中する事がないよう、スタッフが仲裁に入るようにしている。食堂での定期的な席替えを行ってはいるが、他の方法も考えていきたい。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退去後の入居者・家族には、家族会やイベントへの案内をしている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のアセスメントにより、言葉にならない声に耳を傾ける努力をしている。		利用者の状況も日々刻々と変化していく為、冷静沈着なアセスメント・傾聴を行う大切さをスタッフに伝え続ける。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に入居予定者の自宅を訪れ、入居予定者・家族の意向を聞き取る。 入居後も、当人からの話から、情報を得る。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	個々の生活リズムを把握し、見極めをしっかりと行っている。 どうしてもできないことのみ、介助を行う。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者の状況を把握し、家族サイドの意見や要望も取り入れながら、担当者を交え、定期的にカンファレンスを行う。		入居者の状態が変化した場合、迅速にホーム内・家族間での話し合いの場を設けていくよう心掛けている。
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	入居者の状況に変化が生じた場合、アセスメントを仕切り直す。又、見直し前であってもカンファレンスを行い新たな計画を作成する。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランの項目に沿った個人記録の記入を行っている。入居者当人の言葉や、エピソード・身体状況も記録することで、見直しに役立っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者の家族の状況に応じ、受診・その他サービス機関の利用をしていただけるよう支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	イベント開催時・その他、きっかけを作り、積極的にボランティアの協力・参加をして頂いている。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	訪問型マッサージ・理容・歯科サービスを取り入れている。		介護保険外のサービス利用を充実させ、利用者の選択肢を増やし、希望を叶えられるよう生活支援していく。
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターと連絡をとっており、運営推進会議等でも話し合い、協働している。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	近隣にかかりつけの医院があり、定期的に往診して頂いている。通院については、基本的に家族対応となっているが、必要であれば、ホームサイドが対応している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症専門医に受診することが可能である。相談や、治療を受けることができる。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護資格を有する職員が定期的に入居者の健康状態をチェックし、把握している。 24時間体制で相談、対応していただけるよう、体制を作っている。		常勤の看護師がいない為、運営者や各ユニットのリーダーが医療知識を身につけていきたい。 医療関連においての研修会・勉強会に参加していきたい。
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院中は、必ずスタッフが見舞い、家族との情報交換をし、状況把握に努めている。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	対象者はいないが、家族の協力が絶対的なものになるため、細かい話し合いが必要となる・・・という方針はご理解いただいている。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度化する入居者を支える為の、スタッフレベルアップを図る。 家族サイドの意思を把握している。		スタッフが、他ホームへ行き、研修できる体制を整え、介護技術の向上・意識改革に努めていきたい。
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	家族との十分な意思疎通に努め、支援状況等の情報交換を、プライバシーに配慮しつつ行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>個人記録は、入居者の目の届かない場所に保管する。他入居者・他家族には、個人情報情報を漏洩させない。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>意思疎通がうまくいかない場合、入居者には選択肢を提供し、「決定する」場面を設けたり、表情を読む努力をする。</p>	<p>入居者との信頼関係を築く為には、着実なコミュニケーションが必要となってくるため、マンツーマンで会話ができる時間を日常の中で取り入れていけるよう、心掛けている。</p>
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>基本的な一日の流れはあるが、買い物や散歩など、入居者当人の要望を取り入れ、マンツーマンで対応できるよう、できるだけ心掛けている。</p>	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>家族の付き添いのもと、入居者当人の納得する美容室へ出かけたり、入浴時の着替えは当人と一緒にコーディネートしている。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>入居者と一緒に収穫した作物を、他入居者に調理していただいたり、家事を手伝って頂いている。</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>入居者個々の嗜好に合わせ、飲料・飲食物と一緒に購入しに行く。一方、健康を保ちながら、それらを摂取していただくよう管理している。 例) 白飯が苦手な方にはパン粥を提供している。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	<p>気持よい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	<p>排便チェック表を作り、実施している。</p> <p>夜間中はオムツ対応にし、日中はパッド・または失禁パンツで過ごしていただき、トイレ誘導、失敗時の声掛けなどもさりげなく行っている。</p>		
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>入浴を拒む入居者に対しては、間を空けて呼び掛けし、一日おきに入浴していただけるよう心掛けている。</p> <p>また、入浴がお好きな方には、入浴剤などを取り入れ、リラックスしていただいている。</p>		
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>	<p>昼夜の生活リズムを整えるよう支援し、夕方からは不穏にならないように穏やかな時間を提供している。</p> <p>民在野、オムツ対応により、不安を取り除き、安眠の確保に努めている。</p>		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>中庭での家庭菜園をしていただき、園芸作業を日課として頂いている。</p> <p>歌謡ショーをVHSに録画し、いつでも楽しんでいただけるようにしている。</p>		<p>目立って趣味をお持ちでない方に対して、レクリエーションは行っているが、マンネリ化しないように心掛けたい。</p>
60	<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>入居者当人の要望により、当人が所持している場合もあるが、防犯のため、基本的には事務所金庫内にて管理している。散歩時に、当人にお持ち頂き、商品の選択・購入をして頂く。必要であれば、支払い時の介助は行っている。</p>		<p>家族の居力が必要となってくるため、ホームと家族間での信頼関係を築いている。</p> <p>電話などで、密に情報提供し、入居者が買い物ができる機会を増やす。</p>
61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>天候の良い時には、なるべく外出していただけるよう、機会を設けている。散歩は日課だが、他にドライブ・外食・選挙投票にも参加して頂いている。</p>		<p>入居者の要望をその都度取り入れられるよう、スタッフの意識付け・確保に努めたい。</p>
62	<p>普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>	<p>家族と共に、旅行・墓参り・帰郷・外食・買い物をしていただけるよう、家族サイドと話し合っている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状を家族に出して頂いている。入居者の要望と、家族サイドの理解があれば、自宅への電話連絡もして頂いている。その際、他入居者を気にせず、会話が出来る様配慮している。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間については、特に制限は設けていないので、いつでも来訪していただける体制になっている。家族水入らずの時間を持っていただけるよう、個々の居室内にて談話していただき、又、可能であれば居室内にて会食して頂いている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	スタッフは身体拘束について理解している。また、会議・申し送り時には、言葉の拘束についての意識付けをしている。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、かつ事務所に職員がいるときのみ、開放することはあるが、家族サイドの要望により、玄関の施錠開放については見合わせている。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	フロア内に必ず一人はスタッフを配置し、見守りをする。スタッフ同士が声掛けを積極的に行いながら、業務をこなす。夜間も巡視を徹底して、状況把握している。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	全てを取り除くわけではなく、利用者の状況に合わせて、注意が必要な物品に関しては、スタッフ全体が把握し、管理方法を決めている。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	入居者の状況に合わせて、事故を未然に防ぐ為の話合いの場を設ける努力をしている。事故報告書は当日必ず作成し、予防対策の検討をしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	AED講習に参加したり、看護師によるタッピング指導の時間を設けている。 緊急時の対策マニュアルを掲示しており、全スタッフが把握している。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に避難訓練を行っている。 非難口を明確にしており、防災カーテン・絨毯を使用している。 災害時の備品を完備している。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	入居者に起こり得るリスクについて把握しており、面会時などに家族に話す機会を設けている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	普段の様子を把握しているが、常に様子に注意し、変化が見られる場合には、バイタルチェック・看護師への相談・適宜受診していただく。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋のコピーをファイリングし、スタッフがいつでも確認出来る様工夫している。又、服薬表を掲示し、様々な角度から角度から確認が取れるよう、体制を整えている。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎日の、散歩・体操などで体を動かしている。 水分摂取の困難な入居者には、水分チェック表を作成している。乳酸菌の摂取を定期的に行っている。 野菜嫌いの入居者には、白飯に混ぜ込んで摂取していただき、繊維質を多く摂って頂いている。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、口腔ケアの声掛けを行う。 義歯についてはお預かりし、洗浄を行っている。 必要であれば、定期的な訪問歯科サービスを受けていただいている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量を、毎回チェック表に記録しており、全スタッフが情報を共有している。 本部付の管理栄養士が作成する、調理指示書をもとに、パリエーションに富み、なおかつバランスの取れた食事を提供している。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	全スタッフ・入居者と、毎年インフルエンザ予防接種を行っている。 様々な感染症を未然に防ぐ為、適宜対策をとっている。 例)ノロウイルス用の除菌剤を使用する等。 感染症の発生状況について、情報収集をしている。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	キッチン用品については、使用後に必ずアルコール消毒をしている。栄養管理日誌を付ける事で、個々が食中毒予防に敏感でいられるよう実践している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	平屋であり、近隣住宅に馴染んでいる。 玄関外にはプランターを置き、外壁も親しみやすいスモークピンクで彩っている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロア - からは中庭の草木を一望でき、開放感溢れる設計となっている。 オープンキッチンのため、食事の準備段階から、5感を刺激することができる。 施設内の様々な箇所に、視覚を楽しませるよう、掲示物を設けている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下やフロア - 内に、くつろげるスペースがある。 和室があり、くつろげる空間を設けている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、家族サイドには入居者の使い慣れたものを持ち込んでいただけるよう話しており、柔軟に対応している。 例)衣類・寝具・化粧品など		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	風呂場や居室内の空調管理については、入居者に確認しながらマメに行い、喚起については天候により、配慮している。 フロア内は24時間喚起し、快適な空間を提供している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物全体が、バリアフリーになっており、ユニバーサルデザインを取り入れている。 例)入居者の共有部分		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	日々の生活において、冷静なアセスメントを行い、各担当者を中心に、入居者の状況に合わせ、できない部分を介助し、自立への配慮を心掛けている。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	中庭に園芸スペースを確保し、園芸作業を楽しんでいただけるようにしている。また、収穫したものを、入居者同士で共有して頂いている。		

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

会社理念、ホーム理念、ユニット理念・目標とより具体的に取り組み、方向性を示しており、全スタッフに共通意識を持ち、日々の業務に努めている。また、それを掲示しており、来客者・家族にも姿勢、理解をいただいている。入居者個々の趣味・嗜好、個性を見極め、役割を持ち、生き活きとした生活が送れるよう支援している。入居者自身が「必要とされている」と感じられる場所・居場所を目指している。